



アキラさんの生の声を
聞きました！

プリズム ボラ広場



号外

2020.1.17

特別版

毎年恒例の『大阪フィル八尾演奏会』今年はなんと 宮川彬良さんとの共演です！

＜宮川彬良 & 大阪フィル & プリズムホールが紡ぐ、音楽のたからもの＞



宮川彬良さんとプリズムホール

- プリズムホールが「吹奏楽のまち八尾」を象徴する曲を宮川さんに委嘱したのが2015年、その想いを受けて「八尾の長い歴史の中に息づいた人や風土の持つ力強さをぜひ表現したい、はっぴ・浴衣・ハチマキでラッパを吹いて“これからいくぞー！”というような景気が良くて勢いがある曲」との想いを込めて2016年3月に完成したのが『吹奏情話,八尾』です。
2018年にはプリズムホールにて、宮川さん指揮による Osaka Shion Wind Orchestra と一般公募した市民115人とでこの曲を演奏していただきました。



宮川さんが指揮をされた際の
公演ポスター
〈2018.4.29〉

『吹奏情話,八尾』 管弦楽版 初演！

- 今回、大阪フィルとの共演にあたってこの曲を特別に編曲していただき、管弦楽版としては初演です！

あの名曲が再び！

あの名曲とは？

- 宮川彬良さんと大阪フィルは、かつて『大阪フィル・ポップス・コンサート』という大人気のコンサートを1995年から16年続けて来られました。そのコンサートは、音楽の楽しさ・喜びを多くの人に伝え、魅了し、伝説となっていました。その魅力の一つは何といっても宮川さんのミラクルなアレンジで、ジャンルを超えたたくさん名曲が生まれました。アレンジされた曲は16年間でなんと179曲だとか、今回はその中でも『大阪フィル・ポップス傑作選』として人気のあった曲を中心に演奏していただけます。

約15年ぶり…

- 実は、宮川彬良さんと大阪フィルとの共演はなんと15年ぶりだとか、プリズムホールが双方に呼びかけて共演を熱望したことから今回の企画が実現したそうです。きっと担当者の熱い想いが伝わったのでしょうね。これにはもう感謝しかありません、ありがとうございます！
宮川さんと大阪フィルの伝説がここプリズムホールから再び始まります！ 皆さん、その瞬間を是非一緒に楽しみましょう。(^o^)/

取材に同行させていただきました



来る2月8日(日) 大阪フィル八尾演奏会に向けて、宮川彬良さんの取材がグランキューブ大阪であり、我々サポーターも同行させていただきました。(市民サポーター3名)

当日(1/12)は、グランキューブ大阪にて宮川彬良さんと Osaka Shion Wind Orchestra のファミリーコンサートがあり、コンサート終了後という慌ただしい中での取材でした。

18時開始予定でしたが我々が到着したのは約1時間前、会場には既にプリズムスタッフの北芝さん、山田さん、田中さんが到着されており準備を整えておられました。取材は、河内新聞社の方が宮川さんにインタビューをし、我々はその話を聞いて時間があれば最後に質問をする、という流れでした。因みに我々の席は宮川さんの真正面の席です。(これにはかなり緊張しました)

宮川さんが来られるまでの時間は、何となく落ち着かずにソワソワした感じで資料を読んだり、張り詰めた空気が漂っていました。取材は、宮川さんのお人柄もあり非常に和やかな雰囲気が始まり、時には笑いも交え進行していきました。最初は目の前の宮川さんに非常に緊張しましたが、たくさんのお話を伺い、音楽に対して深く考えるととても良い経験になりました。



大阪フィル ポップス・コンサート

ー 大阪フィルとの出会いは？

宮川 1995年34才の頃、それまではミュージカル等クラシックではない所で活動をしていた私がプロのオーケストラ、しかも伝統ある大阪フィルハーモニー交響楽団の指揮台に上がることに！これが私の楽団デビューでした。『大阪フィル・ポップス・コンサート』はこれまで秋山さんや羽田さんが続けてこられた人気のコンサート、そのコンサートを全て自分に任せてもらえる、好きにアレンジ出来る！当時まだまだ若手の私はヤル気に満ちており、「よーしひと旗上げてやろう！」という意気込みで取り組んでいました。実際には譜面を書くだけでも約2カ月かかり、ピアノの弾き振りなど様々な準備は大変なものでした。当時の大フィルは非常に厳しいオケとして有名で、周囲からは「大変だよー」「大丈夫？」とかなり心配されました。私自身も覚悟していましたが、このコンサートへのプランや想い、また譜面を書いていくことで徐々に認めてもらえたように感じました。当時は書いて指揮するのに必死でしたが、私はこの大フィルでオケとしての基礎を学びました。その経験が今でも音の基礎であり、理想の音であり、骨組みになっています。



ー 大阪フィル・ポップス・コンサート その後は？

宮川 第1回目・2回目の頃はまだ客席は半分くらいの状況でしたが、3回目以降から徐々に客席が埋まるようになり、4回目からは満席になりました。原因は色々考えられますが、自分自身ちょうど伸びる時期、成長した時期だったのかな… と思います。例えるなら、最初は小さな灯(ともしび)だったのが少しずつ少しずつ薪を増やし続け、段々と大きな火に成長した感じです。その後、『NHKクインテット』が始まったり、『マツケンサンバ』の大ヒットもあり、周りの環境がどんどん変化していった時期でした。2010年50才の頃、「このまま続けるのは良くない、もっと新しいことをやってみよう」と思うようになり、16年続いた『大阪フィル・ポップス・コンサート』を辞めることをオケに伝えました。結局16年続いた『大阪フィル・ポップス・コンサート』は2010年10月に終了することになりました。

定期・移動公演も含め16年間で50回程
行われた伝説のコンサート ♪



八尾市との出会い



— 『吹奏情話,八尾』への想いは？

宮川 2015年八尾市から「吹奏楽のまち八尾」を象徴する曲を、との依頼がきました。こういった依頼の場合その土地の神話や民話が題材になるのですが、あまりそこにフォーカスすると他では演奏出来なくなるので、「誰もやっていないアプローチをしてみたい」と考え、土着の民話を踏まえつつそこに暮らす人々の営み、その生命が綿々と続いて今があることを伝えたいと『吹奏情話,八尾』というタイトルだけが先に決まりました。2016年に完成したこの曲は、自分で言うのも何なんです、なかなか良い曲になりました。



宮川彬良 & 大阪フィルの伝説がプリズムホールで再スタート

— 大阪フィルとの15年ぶりの共演は？


宮川 今回プリズムホールさんとのご縁で再び大フィルと共演することになりました。もう二度と上がることはないと思っていた指揮台、まさにプリズムホールがキューピッドになってくれました。実はこれまで、『大阪フィル・ポップス・コンサート』で演奏してきた曲を他のオケで指揮をすると、「う～ん 何か違うな…」と感ずることもありました。他方、大フィルでも他の指揮者とやってみると「ちょっと違うんだけど…」と感ずることもあったと聞きました。15年経って今の大フィルがどうなっているのか楽しみです。今は若返った大フィルですが、オケというのは「ウナギのタレ」のように音が受け継がれていくものなんです。では、どんな風に新しくなったのか？またどんな所を受け継いでいるのか？を知りたい。そろそろ私も答え合わせをしても良いのでは？と感ずるようになりました。

— 管弦楽版への編曲は？

宮川 これが大変な作業なんです。クラシックから吹奏楽への編曲はよくありますが、その逆は殆どありません。一度作った曲をもう一度丁寧に解きほぐす作業なんです。進捗状況ですが、今はまだ半分程度ですが(笑)、今日もこれから作業に取り掛かりますのでもう少しお待ち下さい。




取材を終えてサポーターの感想


 昨日はお疲れ様でした、そしてありがとうございました

- ① 打合せのお部屋に入って来られるまでは緊張感が漂っていましたが、ご本人の気さくな笑顔で一気に和やかな雰囲気へと変わりました。河内新聞社の若林さま(実は専務取締役で歌手でもある)のインタビューも大変良かった。宮川さんからのボールを上手に的確に投げ返していました。今朝の河内新聞のインスタグラムには、早速カメラマンの吉川さま(実は代表取締役)とのツーショットが掲載されていました。
- ② 『吹奏情話,八尾』の「情」の文字には、“人間が子孫に脈々と受け継がれていく”という想いを込めて作ったとのこと。今の時点では編曲が半分まで終わり、これから残りを全力で仕上げるとのこと。編曲という作業にはとてつもない時間と労力が必要だということが良く分かりました。8日の本番では編曲の話を念頭に置いて、宮川さんのお話をかみしめながら楽しもうと思います。また、指揮者の役目として「いちばん大切なもの」を問うていきたい。「音楽は踏みつけられてはいけない、踏みつけられても生きている、音楽は自分のものだと思って欲しい」という言葉が印象的でした。

大変気さくなお人柄が伝わってきました。最後にサポーター3人とで写真を撮って下さり、大変良い思い出になりました。このような機会に恵まれましたことを心より感謝申し上げます。

 皆さん、昨日はお疲れ様でした

1つのキーワードは「答え合わせ」だと感じました。伝統ある大阪フィルの指揮者から自ら降板を申し出たことは相当の覚悟がいったと思われます。自分に妥協せず新たな道、ショーやミュージカルに進まれたのだと思います。でも『大阪フィル・ポップス・コンサート』のことはショーやミュージカルに行っても片時も忘れたことは無かったのかなあ…と、感じました。今回のコンサートは宮川さんの意地、大阪フィルの意地のぶつかり合いかもしれません。良いものが出来ると確信しました。答え合わせの答えはどんなことになるかは想像しがたいですが、お互いに時が経って忘れ物を取りに行く感はあると思います。文書は推測が多岐的を得ていないと思いますが、私の思いと感想です。

 取材会お疲れ様でした

宮川彬良さんの取材会に同行できる。当時、「NHKクインテット」を毎日見ていた私にとっては心躍るような機会でした。しかも会場で用意していただいていた席は宮川さんの真正面。取材の間には何度も笑顔に向けて下さり、その度にドキドキしながら緊張を笑ってごまかしていました。

『吹奏情話,八尾』宮川さんが「吹奏楽のまち八尾」のために作られた曲。数年前、最初にタイトルだけを見て感じた曲のイメージは「浄瑠璃」でした。浄瑠璃で語られる人情や人々の営みが「情話」に重なったのですが、宮川さんのお話の中でも同じように「人々の営みやその生命が綿々と続いて今があることを伝えたい」と仰っていました。初演はここプリズムホールで聴き、想像以上に格好良い曲に圧倒されました。2回目はシンフォニーホールでシオンの定期演奏会の中で「これは八尾のために作ったのですが、あまりにも良い曲なので是非聞いて下さい」と演奏された時は、改めてこの曲の持つスケールの大きさに感動しました。今回は管弦楽版に編曲さ

れた『吹奏情話、八尾』その編曲へのご苦労も伺ったうえで存分に楽しみたいです。

もう一つ、宮川さんご自身の「音」に対する想いを語られていました。「音」は目に見えないもので1番弱いものの象徴であると、非常に傷くて、だから時に踏みつけられたりするけれど、それでもまた生まれてしっかり生きていく「生命」と一緒なんだと。そして皆が見習うべき未来像・未来の設計図のようなものがそこにはあるんだとの想いを、熱く語っていらっやいました。私も日々「音」に囲まれて過ごしていますが、宮川さんが仰っていたように無自覚に踏みつけていないだろうか？早いスピードで消費していついていないだろうか？その問いかけには耳の痛いところ、心当りはたくさんあります。深く考えるきっかけになりました。



プリズムホール担当者の想い

- ◆ 宮川彬良さんから今回の大フィルへの想いを直接お聴きできたのは、今回が私自身初めてで、どのようなお話が聴けるか楽しみにしておりました。取材冒頭、八尾駅付近にある植田家住宅やプリズム付近にあった「お好み焼き ぐー」さんのお話など、八尾市にゆかりのあるお話から緩やかに今回の取材内容へと話が進んでいき、とても繊細に周りを見ながら事柄を進めていかれる方という印象を受けました。また、『吹奏情話、八尾』を作成いただいたこともあり、八尾の土地自体にも愛着を持っていただいていることが取材の節々から感じとれました。取材の様子や内容は特別版の記事内や皆さんの感想に書いていただいていますので、ここでは割愛をさせていただきますが、宮川さんの音楽に対する温かくも鋭く芯のある精神性を強く感じる取材会であり、今回の八尾演奏会はその精神性ととも切磋琢磨してきた大フィルとの15年ぶりの演奏会。それぞれの歩みが生む化学反応は、宮川さんや大フィルの皆さんご自身も何が起きるかは当日にならないと分からない、といった印象でした。歴史に残る幕がここプリズムホールで開けることを今から楽しみに、そしてご来場いただけるお客様が「最高だった！」と言っていただけの公演になるよう努めたいと思います！皆さまどうぞよろしくお願いいたします。
- ◆ 今回のお話を聞きながら、2018年に開催した「宮川彬良 & Osaka Shion Wind Orchestra ブラソファンタスティック！ in 八尾オオオ！」を思い出しました。あの日、宮川さんは本当に全力を出し切って音楽に向き合われたご様子でした。あの時の宮川さんの印象と変わらず、今回の取材からも一貫した音楽への熱意を感じました。八尾の歴史から発想を広げ、「脈々と続く人々の命の営み」をテーマとされた『吹奏情話、八尾』は、1回きりでなく継続していろんな場所で演奏されるよう願って作曲され、今その響きを解きほぐしながら管弦楽版に編曲して下さっていること大阪フィルとの15年ぶりの共演について「答え合わせ」であると何度も仰っていたこと。意気込みを聞かれ「泣いちゃうかもしれないね！」と仰るほど、宮川さんご自身の熱い想いに私も心を打たれました。新しい歴史の始まりとして、多くのお客様と共にこの瞬間をしっかりと見届けたいです！

聴きのがせないポイント

【 大阪フィル・ポップス傑作選 】

— かつての「大阪フィル・ポップス・コンサート」のテーマで幕開け —

♪ シンフォニック・パラダイス

— 宮川彬良のクラシック —

＜当時のモーツァルトやベートーヴェンはこんなことを考えていた！ 謎解き、読み解きのようなものがベースになった面白いアレンジ＞

♪ シンフォニック・マンボ No.5《運命》 世界各国で愛されて演奏されている曲

— 大フィル・ポップスの歌謡曲 —

＜日本のメロディーの大々的なアレンジ、大フィルでなければ出ない音がある！＞

♪ 異邦人

♪ 見上げてごらん夜の星を ほか

— 映画のような“音の楽しみ” —

＜オーケストラ音楽の魅力を100%引き出すような曲の数々＞

♪ ニュー・シネマ・パラダイス ほか

— 八尾の新名物 管弦楽版 初演！ —

♪ 吹奏情話,八尾

— 大フィル・ポップスといえば —

＜最初のコンサートで音を出して「ああ、なんか良いコンサートが始まったね…」と感じた名曲＞

♪ ファンタスティック！白雪姫

— 予告アンコール!? —

＜皆さん一緒に、盛り上がらないわけがない＞

♪ マツケンサンバⅡ



プレ企画 宮川彬良さん&大阪フィル&プリズムホールの絆で振り返るあゆみ展

プリズムホールと両者のご縁で叶った今回の共演。それぞれがともに歩んだ歴史を展示でご紹介します

【 日時 】

令和8年(2026) 1月14日(水) ～ 2月8日(日)

【 会場 】

八尾市文化会館プリズムホール 1階オープンコーナー

